

## ストーリーの構成文化財一覧表

番号	ふりがな 文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	いそじょうあと 伊祖城跡	国名勝・県史跡	初期の琉球国の王統として栄えた英祖王の生誕地。琉球開闢神話のアマミクにより造られたグスクとの伝説も残る。琉球古謡集『おもろさうし』には、英祖が夏も冬も酒盛りをした古謡（オモロ）が収録されており、伊祖グスクのふもとにオモロの石碑があります。	浦添市
②	いそ たかうほか 伊祖の高御墓	県指定・有形文化財（建造物）	英祖の父祖代々の墓。崖の中腹の洞穴を利用し、その前面を石積みで塞いだ墓。県の有形文化財（建造物）として指定を受けています。	浦添市
③	うらそえじょうあと 浦添城跡	国史跡	13 世紀に築かれ、14 世紀には高麗系瓦ぶきの正殿を中心に、石積み城壁で囲まれた大規模なグスク（城）。その周辺には寺院や集落があり、後の王都首里の原型がここでできあがっていました。	浦添市
④	まきみなと 牧港テラブのGamma	市史跡	浦添の港であった牧港に残る舜天王にゆかりのある洞穴遺跡。伝説では 12 世紀後半に琉球に来た源為朝の子供が舜天であったと伝わる。	浦添市
⑤	うらそえ 浦添ようどれ	国史跡	琉球王国初期の英祖王一族と琉球王国第 2 尚氏王統第 7 代目国王尚寧王一族の墓。	浦添市
⑥	うらそえじょう まえ ひ 浦添城の前の碑	国史跡	1597 年に尚寧王の命により、浦添グスクから首里城までの道を整備した際の竣工記念碑。	浦添市
⑦	なかがみほうせいかいどう 中頭方西海道 (尚寧王の道)	国史跡	首里城と浦添グスクを繋ぐ古道。琉球王国第 2 尚氏王統第 7 代目国王、尚寧王の命によって改修されたかつての街道（石畳道）。	浦添市

⑧	琉球交易港図屏風 りゅうきゅうこうえきこうずびようぶ	市指定 (有形文化財)	琉球王国時代末期の那覇港周辺の様子を生き生きと描いた屏風です。首里城や中国から戻った進貢船、薩摩役人の姿などが描かれています。 沖縄で唯一の漆の美術館、浦添市美術館で収蔵されています。	浦添市
⑨	旧首里城正殿鐘 (万国津梁の鐘) きゅうしゅりじょうせいでんしやう ばんこくしんりやうかね	国重文	琉球王国が日本や中国、東南アジア諸国との交易で繁栄していた 1458 年に当時の国王尚泰久王が鑄造させた鐘。万国津梁とは、世界を結ぶ架け橋の意味。	那覇市
⑩	久米村周辺の史跡・ 旧跡 くめむらしゅうへん しせき きゅうせき	未指定 (史跡)	天妃宮や孔子廟など多くの文化遺産が残されていた久米村は、沖縄戦で廃墟となりましたが、天妃宮の石門だけが残り、かつての名残をわずかに留めています。	那覇市
⑪	清明祭 しーみーさい	未指定 (生活文化)	沖縄の代表的な祖先祭祀の一つ。旧暦の 3 月頃、「24 節気」の「清明祭」の節気にお墓参りを行います。 沖縄のお墓は、本土のお墓とは違い、大きく、墓庭があるのが特徴で、その墓庭に親族が集まりお墓参りを行います。	那覇市 浦添市
⑫	ウサンミ (お供え物)	未指定 (生活文化)	清明祭の時期に、親族が集まってお墓参りを行う際に、各世帯が持ち寄るお供え物。お参りの後、墓庭に敷物を敷き皆でウサンミをいただきます。	那覇市 浦添市
⑬	那覇港周辺の旧跡 なはこうしゅうへん きゅうせき	未指定 (史跡)	港の周辺には、多くの名所・旧跡が散在していましたが、そのほとんどが沖縄戦で破壊されました。今は王国時代の絵図と明治期の写真で往時の姿を概観することができます。	那覇市
⑭	上天妃宮跡の石門 かみてんびぐうあと いしもん	市史跡	天妃宮とは久米村にあった上下の廟で、航海安全の神である媽祖を祀っています。沖縄戦で廃墟となりましたが、天妃宮の石門だけが残りかつての名残をわずかに留めています。	那覇市

⑮	くめむら600ねんきねんひ 久米村600年記念碑	未指定 (記念碑)	久米村に居住していた閩人 <sup>びんじん</sup> 36姓は、琉球王国時代から政治・経済・文化の発展に大きく寄与しました。久米村が、沖縄の歴史に果たしてきた役割を顕彰し、松山公園内に記念碑が建立されました。	那覇市
⑯	しゅりじょうあと 首里城跡	国史跡	琉球王国の政治、外交、文化の中心地。沖縄最大の木造建築物であり、日本と中国の建築様式が取り入れられています。冊封使滞在の際には、冊封の式典が執り行われたほか、北殿の前に舞台が設営され、様々な芸能が演じられました。	那覇市
⑰	てんしかんあと 天使館跡	未指定 (史跡)	冊封使のための宿舎跡。第七宴 <sup>ほうしゅうのうたげ</sup> 「望舟之宴」として、国王が直接出向き金扇を贈り別れをしたと言われています。	那覇市
⑱	うかんしんりょうり 御冠船料理	未指定 (生活文化)	冊封使接待に伴い発展した宴席料理。ツバメの巣やフカヒレ、松茸、鹿肉のアキレス腱など沖縄にはない食材料がふんだんに用いられていました。琉球食文化研究所において、琉球王国の食文化の保存・復元、普及啓発が図られています。	那覇市
⑲	りゅうきゅうぶよう 琉球舞踊	国重文(芸能)	宮廷芸能として発展した古典舞踊、明治以降の民衆の活力を取り入れた雑踊り、戦後の創作舞踊に概ね分類されます。国立劇場おきなわで保存振興が図られているほか、自主公演も行われています。	那覇市 浦添市
⑳	くみおどり 組踊	国重文(芸能)	冊封使歓待のため1719年に初めて創作、上演された歌舞劇。沖縄を代表する伝統芸能であり、国立劇場おきなわで保存振興が図られているほか、自主公演も行われています。	那覇市 浦添市

⑳	たまぐすくちゆうくん ほか 玉城朝薫の墓 (へんとなけ ほか) (邊土名家の墓)	市史跡	冊封使歓待のための踊 <sup>おどりぶぎょう</sup> 奉行に任じられた玉城朝薫の墓。玉城朝薫は音楽・舞踊・台詞を総合的に取り入れた組踊を創作しました。	浦添市
㉑	しきなえん 識名園	国特別名勝	琉球王家最大の別邸。国王一家の保養や外国使節の接待などに利用されました。 1799年につくられ、翌年に冊封使が招かれています。 琉球式結婚式の会場などにも使用されています。	那覇市
㉒	うちややうどうんあと 御茶屋御殿跡	未指定 (史跡)	1677年に琉球王国の王家の別邸として創建され、国王の遊覧や冊封使などの歓待などに使用されました。その際に様々な芸能などが催されました。 沖縄戦で破壊され、現在、跡地には、首里カトリック教会が建設されていますので、施設内に入る際は、管理者の許可が必要になります。	那覇市
㉓	しゅうるしきんすいじんぶつはく えとうんだい 朱漆山水人物箔絵東道 盆他 43 件 (琉球漆器)	県・市指定 (工芸品)	琉球漆器は、琉球王国時代に冊封使の歓待や中国への進貢品として用いられていた、琉球王国を代表する美術工芸品です。 なかでも、東道盆は、琉球漆器の代表的な器で、形状は四角(5品)、六角(7品)、八角(9品)、円形などがあります。中に盛り込んだ小皿には色や形が美しく、上質な酒の肴を客の数に合わせて盛り込みます。代表的なものとして、ミヌダル(豚ローズのごまだれ蒸し)、ターンム(田芋)から揚げ等があります。 琉球漆器は、沖縄で唯一の漆の美術館、浦添市美術館で常設されています。	浦添市

②⑤	琉球泡盛 りゅうきゅうあわもり	未指定 (生活文化)	琉球王国時代、泡盛は冊封使の饗応や江戸幕府の献上品として、外交には欠かせない貴重な品でした。 また、酒として味わうほか、ラフテーなどの独特の風味を出す調味料としても使われています。 泡盛は、長く寝かせ熟成されることで酒の質が向上し、より味わい深いお酒になります。	那覇市
②⑥	首里城 銭蔵跡 しゅりじょう ぜにくらあと	未指定 (史跡)	琉球王国時代に泡盛やお金などを管理・保管していました。 現在は、跡地に休憩所が造られ、泡盛関連のイベントなどにも利用されています。	那覇市
②⑦	豆腐よう とうふよう	未指定 (生活文化)	豆腐を米麴と泡盛とで加工した発酵食品。 発酵熟成させたそのこくと香りから東洋のチーズとも呼ばれ、首里や那覇だけで作られていました。	那覇市 浦添市
②⑧	桔餅 (きっぱん)	未指定 (生活文化)	九年母やカーブチーなど柑橘類を砂糖で煮詰めたお菓子で、琉球王国時代から作られています。 現在は、那覇市内の一店舗だけで作られています。	那覇市
②⑨	首里城書院・鎖之間 しゅりじょうしょいん きすのま 庭園 ていえん	国名勝	国王の執務空間であった書院、王子等の控え所であった鎖之間、これらの建物と一体となった城内唯一の本格的な庭園からなる名勝。	那覇市
③⑩	向姓家譜 (邊土名家) しょうせいかふ (へんとなけ)	市指定 (有形文化財)	冊封使歓待のための踊奉行に任じられた玉城朝薫の経歴と一族の家系を記録した史料。玉城朝薫は音楽・舞踊・台詞を総合的に取り入れた組踊を創作しました。	浦添市